

# 水田農業レポート

(平成31(2019)年1月号)

栃木県農業再生協議会

## 2. 野菜

県では、県内に食品企業が多く立地している条件を生かし、一定エリアに野菜産地及び食品企業等が集積した「野菜クラスター」の形成を目指し、県内食品企業等と産地・生産者のマッチング（商談）を支援しています。

県内食品企業等の加工・業務用野菜の需要品目（平成30(2018)年9月10日現在）は下表のとおりです。

食品企業	需要品目	食品企業	需要品目
A社 (那須塩原市)	ジュース用トマト、ジュース用にんじん	H社 (足利市)	たまねぎ
B社 (さくら市)	なす	I社 (足利市)	にんじん、キャベツ、レタス、きゅうり
C社 (宇都宮市)	にんじん、じゃがいも、たまねぎ、キャベツ	J社 (宇都宮市)	にんじん、たまねぎ、キャベツ、だいこん、ねぎ、にら
D社 (宇都宮市)	にんじん、長なす、だいこん、ねぎ、にら	K社(埼玉県白岡市)	にんじん、じゃがいも、キャベツ、だいこん、ねぎ
E社 (宇都宮市)	キャベツ、ねぎ、レタス、にら、ミニトマト	L社(東京都江東区)	なす、青ねぎ、小ねぎ、にら、ピーマン、ほうれんそう
F社 (栃木市)	いちご、ぶどう	M社(埼玉県さいたま市)	トマト、ミニトマト、なす、にら、セルバチコ
G社(佐野市・真岡市)	にんじん、たまねぎ、キャベツ、ねぎ、レタス、にら		

※県生産振興課調べ

昨年度、県が上記食品企業等と産地・生産者の商談会を開催し、下表のとおり新たな契約取引が始まっています。

産地	食品企業	品目	産地	食品企業	品目
N農協	野菜加工企業	たまねぎ	S法人	青果物卸(中間事業者)	ねぎ
O農協	野菜加工企業	ねぎ、きゅうり、なす等	T農園	青果物卸(中間事業者)	ほうれんそう、こまつな
P農協	青果物卸(中間事業者)	ねぎ、キャベツ		青果物卸(中間事業者)	ほうれんそう、こまつな
Q法人	青果物卸(中間事業者)	ねぎ		野菜加工企業	加工用トマト、こまつな
R法人	野菜加工企業	なす	U農園	野菜加工企業	たまねぎ

○上記企業との商談を希望する場合は、県農業振興事務所に御連絡ください。



県農業振興事務所、生産振興課に園芸関係のトータル的なサポートを行うワンストップの相談窓口「園芸総合相談所」（愛称「みのりす」）を設置しました。

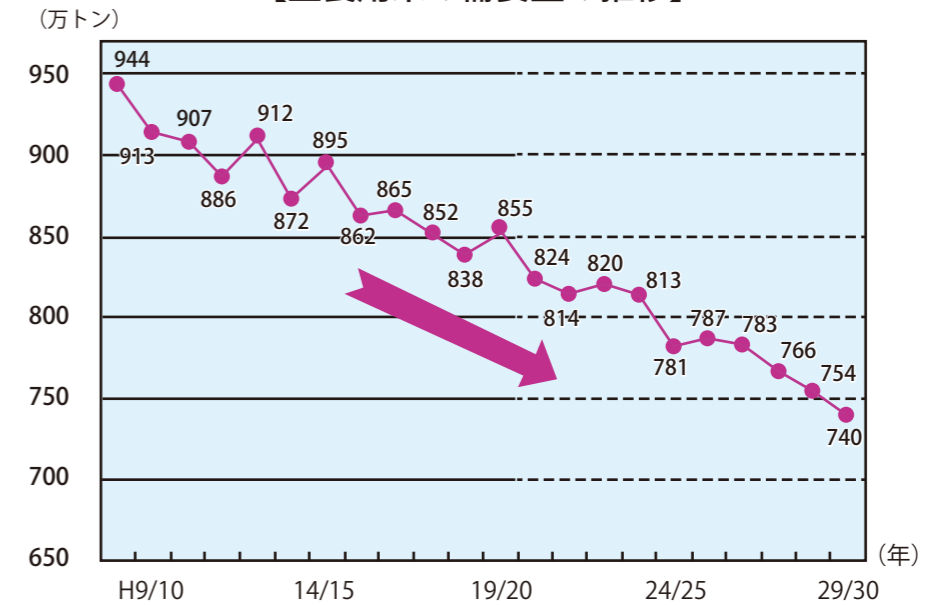
園芸大国とちぎづくり

検索

## 1. 主食用米

(1) 全国の需要動向

【主食用米の需要量の推移】



資料：農林水産省「米穀の受給及び価格の安定に関する基本指針」

主食用米の全国ベースの需要量は一貫して減少傾向にあります。

また、平成30年産、31年産の需要見通しは、人口減少局面を踏まえ、平成30年産が735万トン、平成31年産が726万トンと推計され、およそ年10万トン減の見通しとなっています。

こうしたことから、当該全国の需要見通し等を勘案した本県の平成31年産主食用米の作付参考値は、53,471haとなり、平成30年産主食用米の作付参考値に比べて663ha減となります。

(2) 県産米の在庫状況

年.月	栃木県産(万トン)				全国(万トン)	本県の全国シェア
	30年産米	29年産米	28年産米	合計①	合計②	①÷②(%)
H30.4		10.05	0.38	10.45	201	5.20
H30.5		8.76	0.27	9.05	167	5.42
H30.6		7.35	0.2	7.56	134	5.64
H30.7	0	5.76		5.92	102	5.80
H30.8	0.01	4.1		4.22	87	4.85
H30.9	7.98	3.05		11.12	153	7.27
H30.10	12.65	3.1		15.81	288	5.49

(農林水産省「米に関するマンスリーレポート」より引用)

平成30年10月末における県産米の在庫量は、前年同月(合計14.21万トン)よりも1.6万トン多くなっています。

また、10月末における全国の在庫量合計における本県シェアは、前年同月(4.95%)よりも0.54ポイント多くなっています。

なお、未検査米が含まれているため、合計は一致しません。

(3) 県産米の相対取引価格の推移

年.月	平成29年栃木県産(円/60kg)			全国
	コシヒカリ	あさひの夢	なすひかり	全銘柄平均
H30.4	15,289	15,128	15,124	15,779
H30.5	15,419	14,838	15,355	15,735
H30.6	15,536	15,129	15,126	15,692
H30.7	15,550	14,995	15,047	15,666
H30.8	15,446	15,046	15,164	15,683
出回り~H30年 8月までの平均	15,457	15,016	14,970	15,590
昨年同期間	13,830	13,586	13,900	14,305

年.月	平成30年栃木県産(円/60kg)			全国
	コシヒカリ	あさひの夢	なすひかり	全銘柄平均
H30.9	15,502	取引なし	14,710	15,763
H30.10	15,631	14,451	15,300	15,707

相対取引価格は、運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格の加重平均

(農林水産省「米に関するマンスリーレポート」より引用)

「コシヒカリ」と「なすひかり」については、前月(H30年9月)よりも価格が上昇しています。

(4) 30年産米の契約・販売状況(累計、うるち米、平成30年10月末現在)

	平成30年栃木県産(千トン)			計
	コシヒカリ	あさひの夢	なすひかり	
集荷数量	79.7	5.6	7.8	101.8
(前年同月比)	(108%)	(154%)	(143%)	
契約数量	68.7	3.1	2.4	76.8
(前年同月比)	(105%)	(201%)	(101%)	
販売数量	4.8	0.4	0.8	6.3
(前年同月比)	(103%)	(501%)	(147%)	

(農林水産省「米に関するマンスリーレポート」より引用)

3銘柄とも、集荷数量、契約数量、販売数量において、前年同月比がプラスです。  
 なお、過去3年の販売数量は、27年産が92.7千トン、28年産が108千トン、29年産が95.1千トンです。

トピック 飼料用米の地域内流通を目指した粳米サイレージの取組について

酪農とちぎ農業協同組合の子会社である株式会社酪農とちぎアグリサポート(以下アグリサポート)が粳米サイレージの試験製造を行いました。

飼料用米の地域内流通を進める上で有用な取組と思われるのでご紹介します。

○粳米サイレージとは?

飼料用米を粳ごと破碎処理し、密封、発酵させ貯蔵した飼料。

既存の主食用米の機械体系で作付が可能であり、そのままサイレージ化するため、乾燥調製の工程が不要となります。

○メリットは?

・耕種農家の負担軽減

従来の飼料用米の出荷は、収穫後に乾燥・調製等の作業がありますが、今回の取り組みは、耕種農家がコンバインで刈取をした粳米を、アグリサポートが用意したフレコンバッグに直接入れ、同社が運搬・製造を行うため、負担軽減が見込まれます。

・酪農家が良質な発酵濃厚飼料を入手

酪農家にとって良質な発酵飼料を得るということは飼養管理上とても重要なことです。従来も、転作作物としてトウモロコシサイレージや稲WC Sなどの発酵飼料は利用されてきましたが、今回は子実だけを利用し、茎などは入れない国産の発酵濃厚飼料を入手することが出来ます。

○最後に

平成30年度は、約38haの飼料用米を活用して300t超の粳米サイレージを製造しました。耕種農家にとっては、取組が容易であることから、次年度は製造拠点を増やし、100haで800tの製品製造を目標にしています。

この粳米サイレージは、乳用牛、肉用牛どちらにも使える飼料です。畜産農家への販売価格は、現在の輸入の圧ペントウモロコシ価格より安い設定を見込んでいます。興味がある方はぜひご検討してみてください。

【参考】本取組の戦略作物助成単価は8万円/10aです。